

うちの学校

紹介しまあ!



その23

石屋小学校

こんにちは。私たちは石屋小学校の児童会役員、井戸敢生、嶋根楓真、立木天将、菱谷有真、森崎心愛です。私たちは全校児童165名にアンケート調査を実施しました。題して、「ここがすごいぞ!石屋小学校」です。

【施設がすごいぞ!】
石屋小学校は明石海峡大橋のそばにあり、窓から見えるその姿は大迫力です。反対側には、サービスイリアの観覧車も近くに見えます。また、運動場には「人工山」という巨大な滑り台があります。とても急こう配でまるでジェットコースターに乗っているようです。

【行事もすごいぞ!】
石屋小学校は行事も盛り



なかよし班遊び

だくさんです。多くは一年生から六年生までで構成されている「なかよし班」で活動します。一年間なかよし班活動で他の学年とも交流ができ、協力し合ったり励まし合ったりと絆が深まります。今年はコロナの影響で班のリーダーである六年生が「密を避ける」工夫を考え活動を行いました。また、「石小祭」があります。これは各学年が楽しい「世界に一つだけのお店」を出し、全校児童や先生方、保護者や地域のみなさん、子ども園の園児たちがお客さんとなつて楽しむものです。どの学年も張り切って準備をしました。

【先生もすごいぞ!】

石屋小学校の先生方は厳

しい時もあるけど、明るく優しくのりのいい先生がたくさんいます。「勉強が楽しい」と答えてくれた子がたくさんいて、どのクラスも楽しい授業を受けているようです。また休み時間はたくさん先生の先生方が運動場に出て私たちと一緒に遊んでくれます。

【みんな仲良し!】

最も多い答えが「みんな仲がいいこと」でした。「男女学年関係なく遊ぶ」「みんな明るく優しい」「困っていたら助けてくれる」など、一人一人のいいところがたくさん出てきました。いろいろな学年で大縄跳びを楽しんだり、ブランコを押し上げる上級生がいたり、けがをした子をなぐさめながら保健室に連れてきてくれるお兄さんお姉さんがいたり、なかよし班活動で深まった絆が生かされています。まさに!今年の体育大会のスローガン「心を一つに石屋っ子」です。

こんな「すごい!」がいっぱい詰まっている石屋小学校。やっぱり、石小最高やわ〜!!

くらしのトピックス⑳ 淡路市社会福祉協議会

高齢化・過疎化とつきあう!!

2045年の淡路市の人口は28,100人と推計されています。現在の淡路市の人口が43,157人。これから約25年の間に35%ほどの人口が減少するとの試算です。また、2050年には全国の20%の集落で無居住地域が発生するとの推計が公表されています。

さて、3世帯3人が暮らす淡路島内のある集落では、かつて、50世帯ほどがそこに暮らしていました。随分不便利な生活をされているのだろうとお話を伺ってみると、そうでもないことに気づきます。

月に数回の通院はコミュニティバスを利用し1日仕事ですが、買い物や友人との面談など楽しみが沢山詰まっているといいます。また、昼間には集落を離れて暮らす人たちが入れ替わり訪れ、井戸端会議が開かれるとも話してくれました。人口減少や高齢化は集落の空洞化につながると言われますが、3人の集落では、それでもいきいきとした営みがあることに気づきます。(次号につづく)

ぼんぼん手話 第51回



「船」

両手で船形を作り、前に出す。

手話は、ろうあ者が日常生活しているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やろうあ者の生活等を紹介いたします。

ろうあ者の日常生活を知ろう⑳

聴覚障害は、外見では障がいの状況が分かりにくいです。

現在、3名の聴覚障害者と小さなお店で共に仕事をしています。聴覚障害者がお客様と接する機会は多く、何かを尋ねられて、すぐに返事がないので、怪訝な顔をされます。すぐに、聞こえないということを説明すると、お客様も納得されます。

また、最近はコロナ禍の中、マスクの着用が必須となり、コミュニケーションも取りづらい状況になっています。

協力：淡路聴力障害者協会 手話サークル津名